



北ダッカ市 モデルアカデミー校で雨水タンクの着工式を実施 (バングラデシュ)
One small step for construction of rainwater harvesting system (Bangladesh)

要約

- ミャンマーでは、SEEDS Asiaとミャンマー工学連盟、ミャンマー国社会福祉救済復興省・復興局との3者基本合意連携協定(LOI)の継続を確約する署名式が開催されました。N連(日本NGO連携無償資金協力事業)の第3年次において、防災リーダー研修を行いました。
- バングラデシュでは、N連事業第1年次において、北ダッカ市のモデルアカデミー校にて雨水タンクの建設が開始、防災資機材を使った訓練を行いました。本事業の第2年次に向けて、防災啓発ビデオ作成委員会を発足しました。
- 長野市では、JANPIA及びジャパン・プラットフォームの休眠預金等活用事業において、長沼地区の災害復興に向けたリレー講座を継続して開催しました。
- 丹波市では、ひょうごボランティア基金助成事業において、開発中のカリキュラムと教材の進捗を市島町のパートナーに共有しました。
- 本部では、京都市立高倉小学校と地域学校運営協議会よりミャンマーのナベゴン小学校向けに、絵本を寄贈いただきました。また、外部講師派遣を行いました。

Summary

- In Myanmar, a ceremony for the extension of the “Letter of Intent (LOI)” for Technical Cooperation among SEEDS Asia, Fed.MES, and DDM was held online. Online training on school safety was conducted under the project supported by Ministry of Foreign Affairs of Government of Japan (MOFA).
- In Bangladesh, construction of a rainwater harvesting system has commenced, and online training sessions were continued for the Model Academy with the support of MOFA. Towards the 2nd year of the project, a short movie production committee for DRR awareness was launched.
- In Nagano City, online lectures with the help of experts of different fields continued for the disaster recovery of Naganuma District as a part of activities supported by the Japan Platform and JANPIA.
- In Tamba City, development of a curriculum and educational tools for visitors is ongoing with the support of Hyogo Voluntary Fund and a visit to the local partners in Ichijima-cho for updates was made.
- At Headquarters, picture books were donated by Takakura Elementary School and its community school management committee to the Nabekone Primary School in Myanmar. A staff member of SEEDS Asia delivered a lecture for university students.

目次 Contents

ミャンマー.....	2
バングラデシュ.....	4
日本.....	6
Myanmar.....	10
Bangladesh.....	12
Japan.....	14

【認定】特定非営利活動法人SEEDS Asia

658-0072 神戸市東灘区岡本1-7-7-307
TEL. 078-766-9412 FAX. 078-766-9413
EMAIL rep@seedsasia.org
WEBSITE www.seedsasia.org
FACEBOOK www.facebook.com/SEEDSASIA/
1-7-7-307 Okamoto, Higashi-nada ku, Kobe
658-0072



ミャンマー

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業



From the People of Japan



「ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業（第3年次）」事業の様子

ミャンマーのデルタ地帯にあり、洪水常襲地となっているエヤワディ地域ヒンタダ地区ワーボチーボ村を対象地として、シェルター機能を備えた学校の建設と、村と学校の防災能力強化を含めた包括的な学校防災支援を進めています。新型コロナウイルスの感染防止対策をとりながら、研修や建設を進めています。今回は11～12月にかけての活動を紹介します。

ワーボチーボ村の防災リーダー研修

1) エヤワディ河の歴史と官民一体の水防管理システム研修

12月16日、ワーボチーボ村の教員と村民代表者で構成されている防災委員会メンバーを対象に、ミャンマーの堤防と水資源管理を行っている農業灌漑局から専門家としてウーフォンカインゾー氏 (Mr. U Phone Khine Zaw) を招き、エヤワディ河の歴史と官民一体の水防管理システムについてオンラインでの研修を開催しました。

SEEDS Asiaからは昨年に作成した「河と共に生きる」のコンテンツを紹介し、英国植民地時代からミャンマーの人々が自然と作用し合いながら、暮らしとまちを、つくり、守り、工夫しながら生きてきた歴史を振り返りました。

研修の最後に講師から、堤防に亀裂や穴を見つけた際には直ぐに連絡して欲しいこと、また、堤防の管理については、破堤すれば宅地や農地を一気に破壊してしまうため、住民の継続的な協力とエヤワディ河の状況把握が必要であると呼びかけました。

ヒンタダ地区は洪水常襲地となっていますが、当たり前前の暮らしを守る方の日々の努力を知ること、先人の努力・想い・知恵を知って次世代につなぐことが、今を守り、未来をつくる原動力となります。



オンライン研修の様子



ウーフォンカインゾー氏が講義を行う様子

2) 行政の防災管理システム研修

2020年12月22日、社会福祉救済復興省災害対応局ヒンタダ県事務所職員ドーニンティダ氏 (Ms. Daw Hnin Thida) 及び他チームメンバーを招聘し、ワーボチャーボ村防災委員会メンバーを対象とした防災リーダー研修を行いました。計21名がオンラインで参加しました。

参加者の一人、ドーチャーチャー教諭 (Ms. Daw Chaw Chaw) からは、「早期警報などの情報を伝達する際に、6W1Hを明確にすることが大切であることを学びました。避難所運営についても、緊急時の手順を学ぶことができ大変参考になりました」と研修の感想をいただきました。

研修メンバーが国の防災管理の規程やシステムを知ることで、地域や個人が何をすべきかを検討し、村の防災計画に反映していくことが狙いです。翌23日も継続してSEEDS Asiaの職員から、気候変動への対応についての研修を追加で行いました。政策やルールができたからといって、草の根レベルで急に実施できるようにはなりません。「政策と行動」はSEEDS Asiaが大切にしているアプローチの一つであり、まさに政策と草の根をつなぐ活動がこの研修です。つながりを力にするために、協力団体、関係者の皆様と連携しながら研修を一つずつ地道に積み重ねて参ります。

講師として研修を実施して下さった社会福祉救済復興省災害対応局ヒンタダ地区の皆様には感謝いたします。尚、活動の様子を同局のFacebookでもご紹介いただきました。

<https://www.facebook.com/ddm.hinthata.7/posts/450930949408341>



オンライン研修の様子

SEEDS Asiaとミャンマー工学連盟 (Fed.MES)、ミャンマー国社会福祉救済復興省・復興局 (DDM) との3者間基本合意連携協定 (LOI)

12月23日、SEEDS Asiaとミャンマー工学連盟 (以下Fed.MES:Federation of Myanmar Engineering Societies)、ミャンマー国社会福祉救済復興省・復興局 (以下DDM:Department of Disaster Management Myanmar) との3者基本合意連携協定 (LOI) の継続を確約する署名式がオンラインで実施されました。

DDMからはウーココナイン局長 (Dr. U Ko Ko Naing) の他、幹部職員が出席されました。現在ヒンタダ地区で実施しているソフトとハードを組み合わせた包括的學校防災事業や、世界津波防災の日に関わる啓発活動等の取り組み等、日本国からの支援に対する謝辞と共に、共通の目的に向かって今後もさらなる連携強化を図る旨、ご挨拶をいただきました。

Fed.MESからはウーアウンミン会長 (Mr. U Aung Myint)、並びにウーココジ副会長 (Mr. U Ko Ko Gyi)、ウーチールイン氏 (Mr. U Kyi Lwin) が参加されました。SEEDS Asiaからは大津山光子事務局長の他、ヤンゴン事務所職員ソフィーアウン (Soe Pyae Aung)、ドーロイトイ (Daw Roi Htoi) が出席し、LOIに記載事項の活動説明の他、2008年のサイクロン・ナルギスからの復興支援に始まったミャンマーにおける取り組みの概要を説明すると共に、12年間に亘る活動への深い御礼を申し上げました。

ミャンマー政府から草の根レベルまで、ミャンマー国内において幅広い皆様にご協力いただき、活動が成り立っています。みなさまのご支援・ご協力に改めて感謝申し上げますと共に、より一層励んで参りたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

尚、DDMのFacebookでも今回の署名式をご紹介いただいております。

<https://www.facebook.com/ddmmswrr/posts/2118095471658796>



バングラデシュ

学校を拠点としたコミュニティの防災力向上と全市民的な意識啓発を目指します。
外務省 日本NGO連携無償資金協力事業



北ダッカ市における学校を中心とした地域の災害対応能力支援事業

雨水タンク建設開始！

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、モデルアカデミー校における雨水タンクの着工が遅れておりましたが、11月4日に建設キックオフミーティングを開催し、工事が無事開始しました。着工に際して行われたミーティングには、学校長を始め、モデルアカデミー校が位置する11区評議員のマナン氏 (Mr. Dewan Abdul Mannan)、施工会社の方々等、計21名の方にご参加いただきました。北ダッカ市から主任技術者のタリック氏 (Dr. Tariq)、日本からSEEDS Asia本部職員をオンラインで繋ぎました。タリック氏にはエンジニアとして、「学校防災の重要性と都市部での雨水タンクの有用性」についてお話しいただき、防災教育に対する共通認識の形成を図りました。雨水タンクの建設により、近年首都ダッカで増加傾向にある火災への対応、安全な飲料水の確保、新型コロナウイルスの感染予防対策として手洗いや衛生面の改善が期待されます。



キックオフミーティングの様子

防災啓発ビデオ作成委員会を発足



オンラインミーティングの様子

日本外務省から支援いただいている本事業では、2021年3月から開始予定の2年次に防災啓発ビデオを作成する計画です。その内容について協議をするため、11月30日にビデオ作成委員会のオンラインミーティングを実施しました。ビデオ作成委員会では効果的な啓発に繋がるよう、各分野の専門家を招集し、北ダッカ市の広報室、モデルアカデミー校、映像制作会社の代表、メディア関係者を含む計9名の方にご参加いただきました。ビデオでは北ダッカ市の災害傾向を踏まえて、火災・大雨・大気汚染・新型コロナウイルスの4つを取り上げます。防災サイクルである「予防と軽減、備え、応急対応、復旧・復

興」、4つのフェーズごとの対策に加えて、事業で学校に設置する基礎的防災インフラの使用方法やまちなぎの重要性についても触れ、現地の実情に沿った内容で制作します。

バングラデシュではFacebookの利用者が4千万人を超えていることから、本事業では既存のマスメディアだけでなくソーシャルメディアも活用して動画の普及を目指し、市民に「防災」に関して、少しでも興味・関心を持っていただけるよう努めます。

防災資機材を用いた実地訓練を実施

12月4日、モデルアカデミー校で防災資機材を用いた訓練を実施しました。今回の訓練は、参加者の災害時における救助・応急処置のスキルを身に付け、知識を改善すること、防災に対する意識を高めることを目的として開催しました。教員14名が参加し、バングラデシュ消防局から1名、資機材業者から1名を講師としてお招きしました。消防局の方から火災のリスクと防火行動、首都ダッカにおける近年の火災傾向とその原因についてお話いただいた後、消火器や救助資機材の使用を実演いただきました。また資機材業者の方には、資機材のメンテナンス方法について説明いただきました。その後、実際に参加者が梯子を伸ばして昇り降りし、消火器を使って消火訓練を実施しました。

訓練を受ける前までは、参加者は火災に対する恐怖と不安を抱きながら、どう対応しているのか分かりませんでした。訓練を通して、もし起きてしまったらどうしたらいいのか、どうしたら防げるのか、身近な事例と共に楽しみながら学び、自信をつけた様子でした。

参加者からは感想として、「実際に火災があったら、率先して初期消火を行いたい」「怪我をしている人がいたら、私が手当をしたい」と頼もしい言葉をいただきました。

11～12月は以下活動を実施しました。

日時	内容
11月4日	雨水タンク建設のキックオフミーティング
11月8日	まちあるき(アクションプラン)
11月24日	防災授業計画作成のワークショップ
11月30日	ビデオ作成委員会の発足
12月4日	防災資機材の実地訓練

研修に参加した教員は、これまでの研修で学んだことを基に、1月より生徒たちへの防災授業をオンラインで実施します。



消防隊員による梯子の
使い方のデモンストレーション



初期消火訓練の様子



長野市 長沼地区

長野県長野市長沼地区の災害復興支援を行っています。

ジャパンプラットフォーム 休眠預金等活用事業：

台風15号・19号被災地支援プログラム



「Withコロナ時代」の復興まちづくり支援事業

これからのまちについて考える復興リレー講座の継続実施と公開

令和元年東日本台風(台風19号)による千曲川の破堤で甚大な被害を受けた長野市長沼地区では、復興企画対策委員会を立ち上げ、住民の意見を集約し話し合いを進めながら復興まちづくりに取り組んでいます。SEEDS Asiaは、今後の復興の未来像を描くために参考にしていただけるような専門家と長沼地区を繋ぐ「復興リレー講座」を開催しています。

10月30日に第一回を開催し、11月から12月にかけても、多くの方々のご協力を賜り、講座を実施することができました。

11月25日は、長沼地区に調査に入っておられる新潟大学のト部篤志教授をお招きし、「未来のために過去と向き合うー穂保地先の堤防はなぜ決壊したのかー」を題目に、長沼地区復興企画対策委員会の方々を対象にした限定講座を開催しました。ト部先生は2019年10月の災害直後から調査を進めておられ、現時点での調査状況と結果について、ご報告をいただきました。破堤の原因がわからないうちは安心して長沼地区に住むことができない、と不安を感じる住民の方々が多い中、その要因究明に資する客観的な分析内容を示していただき、長沼地区の方々の今後の暮らしを検討する上でとても有益な講座となりました。

11月27日には、京都府立大学大学院の前田昌弘准教授をお招きし、「災害後の暮らしの拠点を考えるー私の住まいは私が決める?ー」をテーマに災害後の再定住やコミュニティ醸成についての研究に基づく知見をご共有いただきました。災害によって住まいを奪われた人々が、親族やご近所付き合いをベースに新しい居住先を選択したり、逆に災害後入居した仮設住宅や復興住宅で新たなコミュニティの結束が深まったりといった興味深い事例を示していただきました。川の氾濫リスクに鑑み、今後住む場所について住民が再検討せざるを得ない長沼地区で、とりわけ仮設住宅に入居しておられるの方々にとっては、入居2年以内に次の住居をどうするかを決めなくてはならない厳しい状況にあります。他被災地が行政とどう話し合いを進めたのか、また、話し合いの結果どのようなまちづくりを重視したのかについて、多くの学びが得られました。



YouTube配信された前田准教授の講座の様子

12月4日には「事例から学ぶ復興まちづくりへのヒントーまちの「モノサシ」とは何か?ー」をテーマとして、兵庫県立大学大学院の澤田雅浩准教授にご登壇いただき、主に新潟県中越地震後の復興支援と研究に基づく事例と示唆をご共有いただきました。中越地震では人口減少が著しい山間部の集落が多く被害を受けました。高齢化がさらに進むという懸念がある中、小さな成功体験を重ねて復興への歩みを進めることや、都市部在住者と交流を継続し「昼間人口(日中の訪問者を増やすこと)」に重きを置くこと、そして第三者としてコミュニティに寄り添う地域復興支援員の特徴など、大切な考え方を示していただけました。これらの事例は、災害を機に人口流出が懸念される長沼地区の方々に非常に関わりのある内容で、今後の復興に向けてのヒントとなるものだと考えられます。

さらに12月18日には、「佐用町に学ぶ歴史文化資産を活かした復興まちづくりーつなぎたいまちの誇りは何かー」を題目として開催しました。講師として、兵庫県佐用町平福地区の平福文化と観光の会役員である春名政男氏、佐用町元企画防災課長・まちづくり企画室長である久保正彦氏、佐用町元消防長で「道の駅宿場町平福」代表取締役の加藤隆久氏の3名にご登壇いただき、平福地区の名所「旧瓜生原亭」から長沼地区とお繋ぎしました。佐用町は2009年台風21号にて大きな洪水被害を受けました。その復旧・復興において、平福地区は、以前から続いてきた宿場町としての景観を保つ努力をし、まちが大切にできるシンボルを守りながら進めてきました。復興と景観保全を実現するには、有形・無形問わず、その地域で大切にしたい文化資産を住民同士で話し合い、行政とも連携することが大切であること。また、住民が主体となって、少子化が進む中でも伝統的な行事を継続する工夫などが重要だというお話をいただきました。同じ宿場町として長沼地区も伝統的な家屋が多く残り、平福の事例は復旧や復興を進めるに当たっての参考になる内容だと考えます。また、災害経験者である講師からは「伝統的な街並みを守ることはもちろん重要だが、住宅が被災した住民にとって再建問題は一日も早く解決したい喫緊の課題。一人ひとりが納得できる方法で復興を目指すことが大切」とのお言葉をいただきました。この講座はYouTubeにて公開していますので、是非ご覧ください。

<https://youtu.be/Llye7rpBIBw>

これらの講座では、講師と長沼地区の方々の意見交換が今後の方向性を決めていく上での鍵となっています。各方面の専門家や経験者の方々との対話を通じ、長沼地区の復興まちづくりが地域の方々の納得と意志に基づいて進んでいくことを願います。

本事業は、長野市後援、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームの休眠預金等活用事業により実施しています。休眠預金等活用事業は、休眠預金等活用法に基づき日本民間公益活動連携機構（JANPIA）を指定活用団体として、ジャパン・プラットフォームを含む団体が資金を分配し、社会の諸問題の解決を目的に民間公益活動を推進するものです。SEEDS Asiaは、令和元年台風15号・19号被災地支援プログラムで採択され、長野市における復興まちづくり事業を実施しています。



平福地区の講師の方々との
打合せの様子



丹波市

兵庫県丹波市の豪雨災害の教訓を地域資源として位置づけ、市内外の交流を促し地域を元気づける活動を目指します。
ひょうごボランティア基金助成事業

カリキュラムづくり・教材開発の進捗を共有

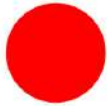
SEEDS Asiaでは、ひょうごボランティア基金の助成を受け、丹波市市島町の災害経験や自然と近い暮らしについて体系的に体験学習を提供するためのカリキュラムづくりと教材開発を進めています。

カリキュラムは、体験学習をレベルや分野別に分け、様々なアクティビティを理解度・経験・興味関心などに照らし合わせて選べるようにしています。また、教材としては災害時に必要な助け合いの大切さを学ぶカードゲームと、SDGsについて小学校低学年～を対象とした紙芝居を作成しています。これらは、昨年度実施したESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育)・防災キャンプで明らかになった「語り部だけでは伝えることが難しい」という課題に対応するもので、新型コロナウイルス感染拡大の中ではありますが、今後の体験学習の受入を視野に入れて着々と改善を進めています。



開発中のカードゲームで遊ぶ子どもたちの様子

12月29日には教材のドラフト版を印刷し、打合せを兼ねて丹波市を訪問しました。そこで年末年始に帰省しておられた地元の方のお孫さん達に実際に遊んでいただきました。教材の対象年齢よりも幼いお子さん方だったので難しそうでしたが、絵が面白いと話を聞いてもらえるということが実証でき、今後の教材準備に大いに役立つ時間となりました。



本部

国内の災害復興支援や、国内の講師派遣をしています。

講師派遣（東洋英和女学院大学 桜井愛子教授ゼミ）

SEEDS Asiaでは、全国の学校や地方自治体、私企業などの民間組織・団体の講演会やイベント等、幅広い方々を対象に、講師を派遣しています。2020年11月～12月には以下の講師派遣を実施しました。

12月1日、SEEDS Asia理事で東洋英和女学院大学国際社会学部の桜井愛子教授より招待をいただき、事務局長の大津山光子が講師として参加しました。「災害に負けない人づくり・まちづくり—『Build Back Better』はみんなのもの?」を題目に、日本と海外の防災協力活動のそれぞれの課題や活動内容、その中で感じる疑問を共有しました。コロナ禍のため、オンラインでの授業ではありましたが、SEEDS Asiaの活動や、活動国のそれぞれの事情や課題、NPOやNGOでの活動について、理解を深める一助になれば嬉しいです。



オンライン授業の様子

京都市立高倉小学校・地域学校運営協議会「スマイル21プラン委員会」の皆さまより絵本を寄贈いただきました

12月初旬、京都市立高倉小学校と地域学校運営協議会「スマイル21プラン委員会」の皆さまより、「ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業(1～2年次)」の事業対象地であるミャンマーの洪水常襲地にあるナベゴン村小学校への絵本16冊とあたたかなお手紙が届きました。

2019年8月、高倉小学校の校長(当時)岸田蘭子先生にミャンマーにお越しいただき、建設したナベゴン小学校にて「地域ぐるみの学校運営」についてご経験を共有いただきました。

高倉小学校は、全国の中でも先駆けて地域による学校運営協議会を持ち、明治時代に日本で初めての小学校「番組小学校(地域住民によりその構想と建設が行われた)」として設立された背景を持つ学校で、全国に先駆けてコミュニティスクールを展開してきた歴史があります。2019年8月には、防災活動だけではなく、同校での地域住民とのイベント運営や定期的な掃除会等、組織体制と共に地域活動とカリキュラムとの関係等、幅広い活動・取り組みをご紹介いただきました。

現地訪問の際に、ナベゴン小学校の校舎を案内していたところ、岸田先生は「絵本があった方がいいなあ」とご発言されていました。その数ヶ月後に高倉小学校の子どもたちによる世界の絵本を紹介するポスターを共有いただき、現地で翻訳ボランティアの方のご協力のもと、ミャンマー語で世界の様々な物語を子どもたちに紹介しました。

そして2020年12月、高倉小学校の子どもたちによって作成された紹介ポスターに載っていた絵本16冊が、高倉小学校と「スマイル21プラン委員会」の皆さまのご厚意により寄贈いただきました。ミャンマーの学校が再開次第、是非現地に届ける所存です。

コロナ禍で、見える範囲ですら怯える時代。遠くの誰かを想い、行動することがより難しい時代となる中、こうしてミャンマーの子どもたちの喜ぶ姿や、成長を願っていただけることに、心から感謝の気持ちで一杯です。

▼絵本の翻訳と紹介の様子(2020年2月)

<https://www.facebook.com/SEEDSASIA/posts/3133128333386539>

▼岸田先生のミャンマー訪問時のビデオ(2019年8月)

<https://www.facebook.com/206338119398923/videos/441571549773688/>



寄贈された16冊の絵本とお手紙



Myanmar

Promoting comprehensive disaster risk reduction (DRR) from construction of safe school-cum-shelter to enhanced community disaster preparedness
Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan



From the People of Japan



Progress of the third year of the project “Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township”

SEEDS Asia is promoting comprehensive school safety in Wa boet Chin boet village, a flood-prone area in the Hinthada Township located in Ayeyarwady, Myanmar. The project includes the construction of a school-cum-shelter and disaster risk reduction (DRR) capacity building for the school and village. The workshops and construction under the third year of the project have been organized and progressed with infection prevention measures put in place.

DRR leader training in Wa boet Chin boet village

1) Training session on the history of the Ayeyarwady River and the government-private cooperation in water resource management

On 16th December, members of the Disaster Management Committee of Wa boet Chin boet village received a lecture by Irrigation Department, which is responsible for river banks and water resource management in Myanmar. Mr. U Phone Khine Zaw, an officer of the Department, discussed the history surrounding the Ayeyarwady River and the citizen-government partnership in flood control and management.

SEEDS Asia also gave an introduction to the “Living with the River” booklet which was developed last year. Its content features the synergy between nature and people since the British colonial period, and how the people have created and protected their lifestyles.

At the end of the session, the lecturer from the Irrigation Department requested for all the participants to continue to cooperate in the dike management and emphasized that everyone in the area needs to be conscious about holes on the dike, dripping water, estimated water level and rainfall intensity information issued by the Department of Meteorology and Hydrology of the Township, and the water level in the upper stream of Ayeyarwady River.

Hinthada Township is a flood-prone area and due to the flood risks, being aware of the efforts made by the locals to protect “the ordinary”, and the history, is key to safer communities.



Material of the lecture



Mr. U Phone Khine Zaw delivering lecture to participants

2) Training session on the government disaster management system

On 22nd December, a training session for the Disaster Management Committee members of Wa boet Chin boet village was organized, with the cooperation of Ms. Daw Hnin Thida, an official of Hinthada District Office of Department of Disaster Management (DDM) of Myanmar. A total of 21 Committee members attended the session online.

One of the participants, Ms. Daw Chaw Chaw, a teacher from Wa boet Chin boet village said, “This session made us gain so much knowledge. In the session on early warning, especially the 6W1H (6W: What, When, Who, Whom, Where, Why and 1H: How) model is very useful for our Village Disaster Management Committee when announcing any information to the villagers while avoiding confusion. The camp management protocol will also help us in action when we encounter cross-cutting issues at the time of evacuation.”

After the training, by understanding the national disaster management protocols and mechanisms, the members are now in a position to understand what their community and individuals need to do and to reflect it in their disaster management planning for their village.

Developing a policy does not, in itself, lead people to start something immediately at grassroots level. Linking policies and action is a critical approach that SEEDS Asia has applied in its project activities, and this training for Wa boet Chin boet village is part of such an approach towards resiliency through interlinkages.

SEEDS Asia is thankful to the team of DDM in Hinthada for their support and for sharing about this training session on their Facebook page.

<https://www.facebook.com/ddm.hinthata.7/posts/450930949408341>



Presentation and lecturer of the online training session

Ceremony of the tripartite agreement on “Letter of Intent (LOI)” for Technical Cooperation on Disaster Risk Reduction among SEEDS Asia, Fed.MES, and DDM

On 23rd December, SEEDS Asia with the Federation of Myanmar Engineering Societies (Fed.MES) and Department of Disaster Management (DDM) held a ceremony celebrating the extension of the Letter of Intent (LOI) for Technical Cooperation.

Dr. U Ko Ko Naing, Director General, and other officials from DDM joined the ceremony and expressed their gratitude to Japan for their cooperation, including SEEDS Asia’s initiatives in comprehensive school safety in Hinthada Township and tsunami awareness with UNDP. They also expressed their willingness to strengthen the partnership towards the common goal of making Myanmar more resilient to disasters.

Mr. U Aung Myint (President), Mr. U Ko Ko Gyi (Vice President), and Mr. U Kyi Lwin of Fed.MES as well as Mitsuko Otsuyama (Executive Director), U Soe Pyae Aung, and Daw Roi Htoi of SEEDS Asia, attended the ceremony and briefed participants on the activities described in the LOI, and on initiatives that have been implemented by SEEDS Asia in Myanmar during the past 12 years.

SEEDS Asia’s activities have been extensively supported by a broad spectrum of individuals from the government to the local communities. We are sincerely thankful for all the help and cooperation we have received from them, and we seek the same for the future as well.

The ceremony is also shared in DDM’s Facebook page.

<https://www.facebook.com/ddmmswrr/posts/2118095471658796>



Bangladesh

School-based community disaster risk reduction and city-wide awareness raising

Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan



From the People of Japan



School-based Capacity Building for Enhanced Disaster Risk Reduction (DRR) in Dhaka North City Corporation

Construction of the rainwater harvesting system began!

On 4th November, a kick-off meeting for the construction of the rainwater harvesting system at the Model Academy which had been delayed due to the COVID-19 pandemic was finally organized. A total of 21 people participated in the meeting, including the headmaster of the Model Academy, Mr. Dewan Abdul Mannan (Councillor from Ward 11) and Mr. Mohosin Alam (from the construction company). Dr. Tariq, the superintending engineer from Dhaka North City and staff members from SEEDS Asia Headquarters also participated online in the meeting. Dr. Tariq spoke about the importance of school-based DRR and the usefulness of rainwater harvesting in urban areas.



Kick-off meeting held at the Model Academy

Construction of the rainwater harvesting system is expected to be effective in responding to fires which have been increasing in Dhaka in recent years, ensuring safe drinking water and improving hand washing and hygiene aspects on a daily basis, as a preventive measure for COVID-19.

Short movie production committee for DRR awareness launched



Participants of the online meeting

On 30th November, an online meeting of the short movie production committee for DRR awareness was held to establish a common understanding to make a concept and contents for the short movies on DRR as the second year of the project which is expected to start in March 2021. A total of nine people participated in the meeting, including the Public Relations Officer of the Dhaka North City Corporation, the headmaster of the Model Academy, director of the video production company, and members of the press. The short movies focus on four topics: fire, heavy rain, air pollution, and COVID-19, with an emphasis on disasters that frequently occur in Dhaka City. The contents

of the short movies will be created based on the actual situation of local communities and highlight measures that need to be taken for the four phases of emergency management: prevention and mitigation, preparedness, response, and recovery. Advice on the utilization of basic DRR infrastructure installed at schools in the project and the significance of “town watching” activity will also be included.

Facebook is estimated to have more than 40 million users in Bangladesh, and the short movies are to be disseminated to the public not only through the regular media, but also through such social media, in order to get citizens interested in “disaster risk reduction” as much as possible.

Learning by doing -hands-on training on firefighting and rescue at the Model Academy-

On 4th December, hands-on training using DRR equipment was carried out at the Model Academy. The primary reason for the training is to improve skills and knowledge of rescue and first-aid techniques in case of emergency and promote participants' awareness of DRR. 14 teachers participated from the school, with lecturers from the Bangladesh Fire Service and Civil Defense, and the suppliers of the equipment. The firefighter spoke about fire risks hidden in our daily life, how to cope with fires, and recent fires and their causes in Dhaka. He also demonstrated how to use a fire extinguisher and rescue tools such as a bottle jack and a crowbar. The equipment supplier explained how to maintain the DRR equipment. After listening to the lectures, the participants tried out different situations such as setting up a ladder against the school building for rescue or putting out a fire with a fire extinguisher.

Before receiving the training, the teachers were scared and anxious about fire breakouts, and did not know how to respond. However, they become more confident after obtaining knowledge and skills of fire prevention and carrying out actual firefighting exercises through this hands-on training. Participants said, "If a fire breaks out, I would like to take the initiative in fire suppression using a fire extinguisher," and "If anyone is injured, I am willing to give the person first aid."

The following sessions were conducted in November and December

Date	Contents
4 th November	Kick-off meeting on construction of rainwater harvesting system
8 th November	Town watching (Action plan)
24 th November	Workshop on making DRR lesson plans
30 th November	Formation of Video Production Committee
4 th December	Hands-on training using DRR equipment

The trained teachers will carry out online DRR classes and demonstrations for students from January 2021, based on what they have learned in the training sessions.



Demonstration of the use of an extension ladder by a firefighter



A participant putting out a fire with a fire extinguisher



Naganuma District, Nagano City

Supporting disaster recovery of Naganuma District,
Nagano City
Japan Platform support for 2019 Typhoon Faxai
and Typhoon Hagibis-affected areas



Disaster recovery and community building in "an era with COVID-19"

Continued lecture series for the Naganuma District in Nagano Prefecture

Naganuma District in Nagano Prefecture was flooded when a dike burst its banks along the Chikuma River during the Typhoon Hagibis in 2019. After the disaster that inundated houses, the community hall and all, Naganuma District Disaster Recovery Planning Committee was established in order to collect voices of its residents and discuss community recovery. SEEDS Asia is supporting the committee by connecting its members to experts who have resourceful knowledge and expertise in community development, disaster recovery, and risk reduction through the conducts of an online lecture series.

The first session was held on 30th October, and several other sessions followed in November and December, thanks to many people who have cooperated to realizing this series.

On 27th November, Dr. Eng. Masahiro Maeda, an associate professor at Kyoto Prefectural University, gave a lecture based on his extensive research about people's relocation and community formation after major disasters. He presented interesting examples of people's choices of new settlements based on adjacency to their relatives or neighbors, or re-strengthening their bonds with their new neighbors at temporary houses or public houses, after their residences have been lost due to disasters. Those examples of residents' discussions with the government and their decisions regarding their newly formed communities were quite informative for the people of Naganuma District which faces flood risk of the Chikuma River, especially for those who are currently residing in temporary houses and have to make decisions on where to live next, as occupants of temporary houses need to move out within two years.



Dr. Eng. Maeda's lecture live streamed on YouTube

On 25th November, Dr. Atsushi Urabe, a professor at Niigata University, was invited as the lecturer. Dr. Urabe has visited Naganuma District several times since right after the Typhoon Hagibis in October 2019, and was kind enough to give an update on his research to the residents. While the residents of the District are actually concerned about the safety of their home as long as the reason of the dike breach that caused the area to be flooded is unidentified, Dr. Urabe's insights based on scientific analysis could help them understand their situation objectively and plan for their future.

On 4th December, Dr. Masahiro Sawada, an associate professor at the University of Hyogo, shared examples and advice mainly based on his deep experience in research of, as well as support for, the affected areas by the Niigata Prefecture Chuetsu Earthquake. The earthquake struck communities in predominantly mountainous areas that had been facing depopulation. Yet those communities managed to take steps towards disaster recovery by maintaining high daytime population through accommodating visitors from the city, and by accepting deployments of a third party called the “community recovery supporters” to assist the locals with fresh ideas to make their communities revive. These examples indeed are very relevant to Naganuma District in terms of planning for their disaster recovery and community development.

Furthermore, on 18th December, three lecturers were invited from the Hirafuku District, Sayo Municipality, Hyogo Prefecture. The lecturers have different backgrounds: one board member of the “Hirafuku culture and tourism council”, one local government official, and the other former fire chief of the municipality and got connected online at one of the prominent cultural heritages of the Hirafuku District. Sayo Municipality was severely affected by the Typhoon Mirinae in 2009, but in the course of reconstruction, Hirafuku maintained the traditional landscape that has been the pride of the community for hundreds of years. Therefore, Hirafuku represents a community that managed to protect its most cherished symbol even after a disaster. This is only possible when the entire community concludes that certain tangible/intangible cultural assets are indispensable. Measures to continue community traditions in aged society and collaboration with the local government are also vital, according to the people of Hirafuku. Both Naganuma District and Hirafuku District used to be post towns with many vintage houses, therefore the model in Hirafuku could be considered a good model in the reconstruction and recovery in Naganuma. Additional important notion was added by one of the lecturers that, for sure it is important that traditional landscape is maintained; however, for the disaster-affected people who lost their houses, early reconstruction is an utmost priority, therefore disaster recovery should be something that individuals find as a solution and can consent to.

This lecture is available on YouTube (however, only in Japanese):

<https://youtu.be/LIye7rpBIBw>

These lectures are always followed by discussions between the lecturers and the participating members of Naganuma District. We cannot help but hope that these discourses will enable the local people in Naganuma to draw a blueprint of and realize disaster recovery and community development.

This project is implemented utilizing funds from the Japan Platform (via the Act on Utilization of Funds Related to Dormant Deposits to Promote Public Interest Activities by the Private Sector).



Meeting with the lecturers
of Hirafuku District



Tamba City, Hyogo

Promoting community revitalization through learning exchanges about disaster experiences
Hyogo Voluntary Fund

Updates of Hyogo Voluntary Fund-supported project in Tamba

Local people of Ichijima-cho, Tamba City, and SEEDS Asia have provided learning opportunities for different participants, from small children to university students, in full use of the experience of disasters and lifestyle in harmony with nature in the community of Tamba. Currently SEEDS Asia is working on developing a curriculum and educational tools for experiential learning provided in Ichijima-cho. This project is supported by Hyogo Voluntary Fund which intends to revitalize community-based activities through funding local not-for-profit groups.

The curriculum will be developed in order to systematically provide various activities per level and category, so participants of experiential learning events can choose their program based on their understanding, past learning experiences and interest. Learning tools, specifically a card game and picture story shows are also in the making, so learners of nine to twelve years old can get an idea of the importance of mutual help and sustainable development goals. These tools are being developed in response to the challenge identified during the ESD (Education for Sustainable Development) – DRR (Disaster Risk Reduction) Camping event held in 2019, which taught us event organizers that mere talking does not effectively convey our messages to learners. During the COVID-19 pandemic, the tools are being developed so as soon as we are able to organize events, there are useful tools for the participants’ learning.

On 29th December, a draft set of the card game and picture story was printed and performed in front of the children who were visiting their grandparents and also SEEDS Asia’s partner in Tamba. Though the children were younger than the target audience of those tools, it was a great finding that pictures really attract children’s attention.



Children playing with the card game



Headquarters

Disaster recovery projects and dispatch of staff members as lecturers

Lecture delivered for Toyo Eiwa University students

On 1st December, Executive Director Mitsuko Otsuyama was invited by Dr. Aiko Sakurai, a professor of the Faculty of Social Sciences of Toyo Eiwa University who is also a board member of SEEDS Asia, and participated in her class as a lecturer. Under the theme of “Creating disaster-resilient people and communities – Is ‘Build Back Better’ for everyone?,” she shared SEEDS Asia’s activities and challenges of DRR in Japan and overseas, and the questions that we cannot help but raise through our work about existing policies and ethics. Although the lecture was delivered online due to the COVID-19 pandemic, it is hoped that it will help deepen the students’ understanding about SEEDS Asia and other not-for-profit and nongovernmental organizations, and the background and challenges in respective countries SEEDS Asia is working for.



Material used in the lecture

Picture books donated by Takakura Elementary School and its community school management committee "Smile 21 Plan Committee"

In early December, SEEDS Asia Headquarters received 16 picture books with a heart-warming letter from Kyoto to the Nabekone Primary School in Hinthada, Myanmar.

In August 2019, the former principal of Kyoto City Municipal Takakura Elementary School visited Nabekone Primary School in Myanmar and shared her experience of community involvement in school management. Takakura Elementary School is one of the very first elementary schools established by the local community members in the Meiji era (1868 – 1912) and is a pioneer of "community schools" which promote school-community collaboration in educational activities and in management of the school itself. As a former principal of such a special school, Ms. Ranko Kishida gave an introduction of the school's events, regular cleaning activities, and their relevance to the school's organizational structure and curriculum management.

When Ms. Kishida was visiting the new building of the Nabekone Primary School, she noticed that there were no picture books in the school, and suggested that such books should be provided to the students. A few months later, she encouraged her students to make posters recommending their favourite picture books of the world. These posters were sent to Myanmar and translated into the Myanmar language.

Today, the actual books that were recommended in the posters were sent as gifts from the kind-hearted people of Takakura Elementary School and its community school management committee called the "Smile 21 Plan Committee". SEEDS Asia will deliver the books to Nabekone as soon as schools in Myanmar reopen.

The COVID-19 pandemic has forced us to lock ourselves in from threats, and it would be very a challenging deed to extend our thoughts to, and act for, people at a distance. SEEDS Asia is truly grateful that these books will bring joy to children in Myanmar, and there are people who wish for healthy growth of the children from Japan.

▼Post on the translated posters (February 2020)

<https://www.facebook.com/SEEDSASIA/posts/3133128333386539>

▼Post on the video featuring Ms. Kishida's visit to Myanmar (August 2019)

<https://www.facebook.com/206338119398923/videos/441571549773688/>



Picture books and a letter delivered from Takakura Elementary School and "Smile 21 Plan Committee"